

第4学年 年間指導計画(社会 全90時間)

学習の目標	
(1) 地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。 (2) 地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。 (3) 地域における社会的事象を観察、調査し、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を育てるようにする。	
学習の方法	
○自分たちの身近な地域や市について、学ぶ。地域の様子は場所によって違いがあることを考える。 ○地域の人々の生産や販売について学ぶ。そして、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考える。 ○人々の安全を守るための関係機関の働きと従事している人々の工夫や努力を考える。	
学習の評価	
次の4つの観点にそって、どれだけ実現できたかによって評価する。 1.関心・意欲・態度 2.社会的な思考・判断 3.観察・資料活用・表現 4.社会的事象についての知識・理解 「よい子のあゆみ」では1～4についての評価の結果をお知らせする。 評価の方法は、ペーパーテストだけでなくプリント・ノート・発表などで行う。	
単元名	主な学習内容
1 けんこうなくらしを守る	
(1)くらしをささえる水	・人々の生活にとって必要な飲料水の確保の事業は、組織的・計画的に進められていることを理解し、健康な生活の維持向上のために自分ができることに進んで取り組もうとする態度を育てる。 ・飲料水を確保するための事業や施設・設備の様子を調査したり見学したりして調べ、地域の人々の健康の維持向上に役立っていることを学習する。
(2)ごみのしより	・身近な地域で行われているごみの処理と利用について関心をもち、意欲をもって見学や調査をして調べ、これらの事業が地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることに気づく。
(3)下水のしより	・家庭や工場などから出されるごみの処理の様子を見学し、調べたことを絵やグラフなどにわかりやすく表現し、事業の対策や人々の働きについて具体的に考える。
2 くらしのうつりかわり	
(1)古い道具と人びとのくらし	・昔と今の道具の違いを通して、昔と今とでは人々のくらしの様子が変化してきていることを理解するとともに、現在の自分たちの歴史的背景に関心をもって調べる。
(2)電気とくらし	・古い道具の様子や使い方を具体的に調べ、古い道具には昔の人々の知恵と工夫があらわれていることに気づき、当時の人々は生活の向上を願ってきたことを学習する。
(3)地域の開発につくした人びと	・広島市に古くから残る用水路が果たしている役割を理解するとともに、それをつくった人々の苦労や願い、また地域をよりよくしていこうとした思いについて学習する。 ・地域の発展に尽くした先人に関心をもち、実際に史跡や資料館を見学したり、資料を活用したりして、その働きや苦心について考える。
3 わたしたちの県の様子	
(1)広島市の位置	・県内における自分たちの住んでいる市町村の地理的位置や県全体の土地の様子、交通の様子を調べ、県の地形や産業などの特色を学習する。
(2)広島県の様子	・県の学習に関係する資料を集めたり、地形図から読み取ったりしたことを白地図に表現するなどの具体的な活動や作業を通して、県全体の特色を考えることができるようにする。
(3)広島県のいろいろな地いき	・県の学習に関係する資料を集めたり、地形図から読み取ったりしたことを白地図に表現するなどの具体的な作業や活動を通して、県の特色ある地域の人々の生活を考えることができるようにする。
(4)広島県の広がりとからし	・昔から続いている県の特色ある伝統工業の様子を調べ、県の特色を考える。
①広島県と日本各地のつながり	他地域と広島県のつながりや世界との結びつきについて調べる。
②広島県と外国とのつながり	